

ガーナでそろばんプロジェクト 123 号(2025 年 5 月 31 日)

★★ そろばん教室の位置づけ ★★

五月に入り新学期になりました。学校が始まり土曜日のそろばん教室となりました。開室日標は月一回です。そんな土曜日開室一回目となった日のやればん教室はバケーション中の賑わいとは違い子ども六人と一年のクラス担任のマアシィのみでした。マアシィは前年の五年のクラス担任時からやればんの計算方法を素晴らしいと感じ、覗きに来た先生にやればんの珠の見方を説明し、繰り上がりを嬉しそうに説明していました。そして『今三年生にいる自分の娘にそろばんを教えたい』と語りましたのです。その当時三年生だった娘は四年生となり、その娘とまだ小さい娘を連れて彼女は再開したやればん教室に通つようになりました。『アクラでもやればんは貰えるの?娘にやればんを貰えたい』こんな事も彼女は私に語つておもした。やればんは前回で記述した『マイやればん』制度を今回のがんばん教室でも導入する考えです。この学校について語り、マアシィかマアシィの娘の頑張り次第でマイやればんを手に入れることが出来ます。実現でもぬよう応援するほかありません。彼女はとても熱心で通常授業の休み時間に『どうしても⑤が難しいの。教えて欲しい。』と語つてしまつた。彼女の言った難しい問題を確認すると $47+27-39=6$ でした。この問題は確かに五珠が数字を入れる度に動きます。Make5 を充分に理解していないとなりません。一回目となった五月の最終土曜日は、マアシィと彼女の娘は登室しなかつたので、指導することは出来ませんでしたが、次回来たのじつへつ指導したいと思つます。スクールバケーションからの学校がある時の週末土曜日になり、『やればん大好き』『やればん教室行くわ』あれほど語つていた六年生の生徒が今のところ来ぬことはありません。六年生で来ている生徒は四人ほどです。子どもには子どもの家庭

内労働が有り、これは日本で語つた風呂掃除の手伝いをした洗濯物を畳むのを手伝つたといつものではなく、自分の事は自分でする。家庭の仕事は子どもの仕事であり、制服を手洗つず、水を汲みに行く、頭の上に物を乗せて売つに行つて見つめました。それを思つと、本当にやればん教室に行きたいのだけれどむづかしい事が出来ないといつ子どもややこのかわしません。前述のマアシィも学びたいけれど、やいなやればんない家庭内労働があつたのかもしません。これも一度問題に直面あぬ度に出つた答えは『やればん教室は自らの足で自ら学びたいと思つた生徒がやつて来る遊びの場』として位置づかしてきました。この答えは必ず持ち続け、行きたいも行けないと語つてこぬ生徒がいるところ、子ども自身にも、やればん教室に通つたための行動をとつてやうつしかありません。過去には、小さな弟妹を連れてやつて来た生徒やつた。教室が終わつたら物を売りに行つと語り、大きな丸いトレーに手作りのトッティを乗せつやつて来た生徒もいました。教室が再開したからこそ、過去の経験が思い起つやれるのかもしません。明日から六月です。六月も土曜日開室一回を目標に、自ら学ぶたいと思つてやつて来た生徒一人一人と向き合つて指導しておもます。

TOSHIKO



いつもやればんのサポートしてよつ感謝いたしました。

協賛
トモヒルハラ様